

ゆめ
ちどり
童

菅波 茂

4月20日、「あすか健康村」フェスティバルが開かれた。晴天に恵まれた一日だった。同村は、医療法人アスカ会、社会福祉法人遊々会と特定非営利活動法人AMDAの3団体で構成する。スローガンは「岡山、日本そして世界の命に貢献」である。「平均寿命世界」を誇る日本の光と影を支える健康保険と介護保険のもとに運用されている諸施設とソフトプログラムが基本的に整備され、国連経済社会理事会総合協議資格を認定されたAMDAが、世界に向かって「平均寿命世界一の謎」を発信する複合施設群である。

多くのテントが並んだ。中瀬津町内会による餅つき、平津学区体育協会によるうどんとたこ焼き、西瀬津活性化推進委員会による焼きそば、フィリピン、トルコ、スリランカの名物料理の食べ物コーナーは行列ができるほどだった。また、地元のアスカ会やアスカ会による健康相談、子ども会の遊びのコーナー、環境保全や福祉などに取り組む協賛団体など計25コーナーを開設した。約1000人に楽しんでいただいた。その他、グラウンドゴルフ大会や室内での歌やダンスなどの演芸も行われ、木彫りなどの手芸作品も展示された。水琴窟20年の竹原實氏による展示が華を添えた。

「あすか健康村」フェスティバル 盛大に開催

のデイサービスである「平津学区シルバークミユニティ」に代表されるように、町内会や愛育委員会など地域諸団体のボランティア活動が盛んな土地柄である。このフェスティバルは、多くの地域諸団体や関係団体に支えていただいた。フェスティバル実行委員長である久世英一氏は、中瀬津町内会長であるとともに岡山市子ども会育成連絡協議会副会長として25年間に及ぶ実直な経歴をもっておられる。フェスティバル事務局長である村野陽治氏はAMDAボランティアアセンター副センター長であり、前一宮郵便局長として国際ボランティア貯金のお世話をしていたのだし、一宮地区には多くの知己がおられる。

日本の精神文化を表現するわかりやすい言葉が3つある。「おかげさま」「おたがいさま」そして「もったいない」である。「おかげさま」は自覚しながら他人から支えられている事実を、「おたがいさま」は共同体の相互扶助を、「もったいない」は身に余る喜びを表現している。この3つの言葉の結論は「ありがとう」である。「平均寿命世界一の謎」は日本の精神文化から派生していると確信している。「あすか健康村」フェスティバルが、この3つの言葉を表現できる場として、地域の方々と世界に向かって発信できるようにすれば最大の喜びである。

末筆ながら、「あすか健康村」フェスティバルに協力していただいた方々に、この紙面をかりて改めてお礼を申し上げたい。

(AMDAグループ代表)